

2,000円～52万2,000円、並青銅鑄物48万
2,000円～49万7,000円、上青銅鑄物削粉49

万7,000円～51万7,000円、並青銅鑄物削粉
47万2,000円～49万2,000円どころの様子。

LME銅はECB理事会と米雇用統計発表を控え上値重い NY銅は反落、ニッケルは在庫増で過去最高に

7日入電のLME銅相場は前日比27ドル高の7,168ドルと続伸。上昇も、ECB理事会と米雇用統計発表を控え上値は重い。

NY銅相場は1.75セント安の323.50セントと反落。雇用統計を控え中国需要懸念で下落。

NYカーブは7,121～7,122ドルで、LME先物比は48.50ドル安となった。

錫は米雇用統計控え様子見

LME錫相場は105ドル高の2万2,955ドルと続伸。米雇用統計を控え様子見となった。

鉛は米雇用統計控え上値重い

LME鉛相場は21.5ドル高の2,144.5ドルと反発。米雇用統計控え上値は重い展開。

亜鉛は米雇用統計控え小幅高

LME亜鉛相場は7.5ドル高の1,891ドルと反発。米雇用統計を控え小幅高で引けた。

アルミはECBと雇用統計控え様子見

LMEアルミ相場は14ドル高の1,780ドルと反発。ECB理事会と米雇用統計控え様子見。LMEアルミ合金は5ドル安の1,774ドル、北米特殊アルミ合金は5ドル高の1,827ドル。

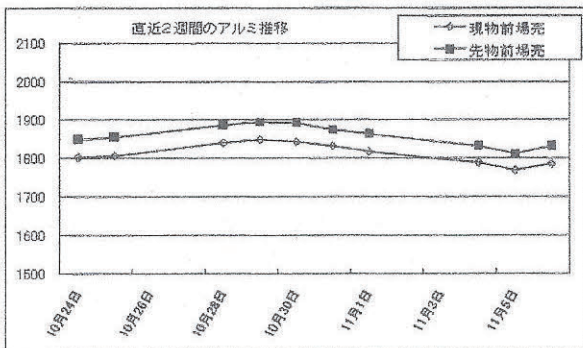
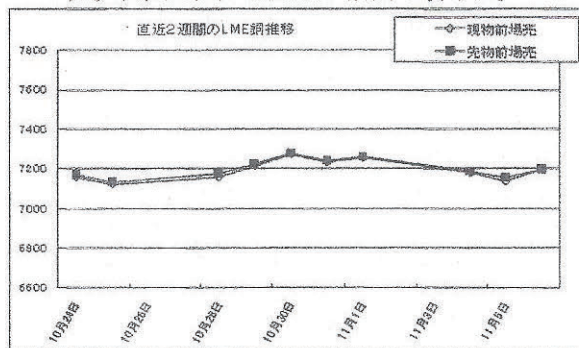
ニッケルは在庫増加、過去最高に

LMEニッケル相場は90ドル安の1万4,185ドルと反落。在庫は増加し過去最高を記録。

KLTM錫は14.8セント反落

採算値は変わらず

KLTM錫は14.8セント安の72.925Mドルと反落。USドルは30ドル安の2万2,920ドルで出来高は45トン。Mドル/USドルレート=3.1817とTTSレート99.67円で換算した採算値は変わらずの228万9,000円、諸掛込みの採算値は変わらずの244万9,000円。



橋本健一郎氏のアルミスクラップ10月レポート及び11月見通し

■概況：前半はアメリカ連邦政府の機関が一部閉鎖する可能性が高まり、その後一部閉鎖が開始、週を跨いでもアメリカ財政問題が解決してないことなどのマイナス材料はあったが、安倍晋三首相が消費税増税を表明したことや9月の日銀企業短期経済観測調査(短観)で、大企業製造業の業況判断指数(DI)がプラス12と3四半期連続で改善。市場予想の中央値(プラス8)も上回ったこと、アメリカISM非製造業景気指数54.4と予測の57を下回ったことなど金融緩和継続へのプラス材料から1824ドル(現物後場買い)と前月最終価格から34ドル上昇しての前半締めとなった。

後半はアメリカ債務問題で、上院下院で来年2月7日まで国債の発行を認める案が可決したこと、10月のHSBC中国製造業PMI速報値で50.9に上昇、7カ月ぶりの高水準だったこと。10月のユーロ圏消費者信頼感指数は-14.5に改善、予想の14.4を上回るなどプラス材料はあったが中国の金融引き締め観測や短期金利の上昇、さらにECBの銀行ストレステストに厳格化による警戒感、また予測どおりFOMCで現行の量的金融緩和策の維持を決めたことから利益確定売りが入るなどのマイナス材料から下落。11月1日現在LME(現物後場)1866ドルと前半締めから5ドル下落してのス

ターゲットとなった。

■前月の経済指標：日本自動車工業会によると自動車生産台数は前年比+13%の87万3623台。日本自動車販売協会連合会によると自動車販売台数(軽除く)は前年比+17%の26万4587台。国土交通省統計による新設住宅着工戸数は前年比+19.4%の8万8539戸。貿易指標を見ると、財務省貿易統計による輸出は、アルミ新地金が前年比+14.1%の265t、2次合金が-11.3%の990t、スクラップが+12.5%の1万3303t。輸入は新地金が前年比-23%の11万9996t、2次合金が+11.8%の8万4754t、スクラップが+28.6%の741t、合金スクラップは+28.1%の3773t。前月の国内指標を見ると、日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば板類・押出生産合計は前年比+3.4%の16万7602t。日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム2次合金・同合金地金等生産実績は前年比+2.2%の6万6897tであった。

■見通し：9月はアメリカ債務引き上げ問題と中国の金融引き締め観測に一喜一憂した都市となった。自動車生産は前年比+13%の13カ月ぶりプラス。乗用車+12.7%、トラック+15.7%、バス+7%。販売の方は2か月連続前年超えの前年比+17.3%となり、乗用車+18.6%、貨物+8.8%、バス+12.4%。新設住宅着工戸数は先月に続き13カ月連続増加の前年比+19.4%(前月比(季節調整済み)+8.8%)の8万8539戸。今月も堅調である住宅関連は持家+14%、貸家+21.5%、分譲住宅+23.5%と大幅増。消費税導入前の駆け込み需要から自動車関連のアルミ2次合金生産は前年比+2.2%と3カ月連続プラス。圧延・押出品生産数は前年比+3.4%、3カ月ぶりプラス。圧延に関して、缶材は+12%、ボトル缶が好調のため。自動車+11.7%、新車生産が好調のため。輸出は5カ月連続マイナスの-15.1%への輸出が-25.7だったことから。輸出は新地金が前年比+14.7%の265t、2次合金が-11.3%の990t、スクラップが+12.5%の1万3303t、円安を背景に

輸出増との見解。輸入は新地金が前年比-23%の11万9996t、2次合金は+11.8%の8万4754t、スクラップは+28.6%の741t、合金スクラップは+28.1%の3773t。前月に続き新地金は携帯電話や電気関連の板・条需要の不振や円安からの割高感のため輸入塊は減少、2次合金は国内自動車生産回復基調から上昇との見解。

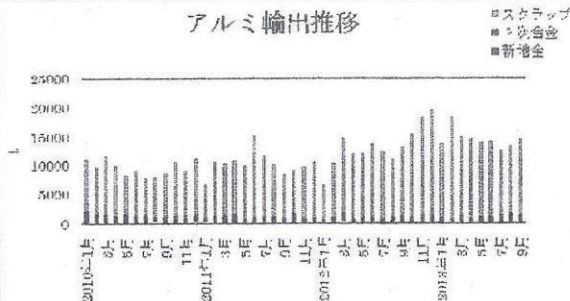
アルミ需給に関しては、住宅関連は新設住宅着工数が前年比+19.4%で13カ月連続増加、持家+14%、貸家+21.5%、分譲住宅+23.5%と大幅増。待望の自動車は生産が13カ月ぶりの+13%。さらに9月の国内販売台数が前年比+12.4%と大幅増。予測の通り販売増につられ生産が増加。住宅、自動車の2本柱が復活し今後供給不足が拡大するの可能性がある。

アルミ価格に関しては、今月は米FRB金融緩和縮小開始と米経済指標に左右される。先月に続き金融緩和縮小も発言が二転三転しておりマーケットも若干織り込み済み。新規材料難の中狭いレンジで動くのでは。センチメントの改善からそれらを踏まえた価格は10月後半高値付近の1900ドルを予測。下値はFRBによる金融緩和縮小開始が起こった場合は10月後半安値の1790ドル割れを予測。スクラップ価格については上記条件によってLME価格さほど大きく動かないとの予測の中、住宅、自動車販売の堅調や消費税増税前の駆け込み需要からの需給ひっ迫からプラス5円~10円程度上昇するとの予測。

	7月	8月	9月
生産台数	91万114台	68万487台	87万3623台
前年比	-15%	-7.6%	+13%
	8月	9月	10月
販売台数	21万7411台	32万4315台	26万4587台
前年比	-6.4%	+12.4	+17%
	7月	8月	9月
新設住宅着工数	8万4459戸	8万4343戸	8万8539戸
前年比	+12%	+8.8%	+19.4%
輸入	7月	8月	9月
新地金	11万4718t	14万8001t	11万9996t
前年比	-28%	-1.1%	-23%
2次合金	8万5951t	8万7062t	8万4754t
前年比	-9.3%	-11.7%	+11.8%
スクラップ	804t	613t	741t
前年比	+62.1%	-5.6%	+28.6%
合金スクラップ	4082t	4299t	3773t
前年比	-51.7%	+57.5%	+28.1%

輸出	7月	8月	9月
新地金	135t	158t	265t
前年比	-17.7%	+9.7%	+14.1%
2次合金	1182t	1563t	990t
前年比	+87%	+85.6%	-11.3%
スクラップ	11142t	11558t	13303t
前年比	-3.3%	+14.4%	+12.5%

アルミ輸出推移



アルミ輸入推移

